

特別講演 2

「COPD 患者のフレイルに対する漢方薬の臨床応用と考察」

昭和大学医学部内科学講座 主任教授

相良 博典 先生

慢性閉塞性肺疾患（COPD）は主に喫煙を長年にわたって吸入することにより生じる肺の慢性的な疾患であり、進行性の気流閉塞を示す。臨床的には徐々に生じる労作時の呼吸困難や慢性の咳や痰を特徴とし、栄養障害や筋肉量の低下を伴うことも多く、罹患率並びに死亡率が高いことから国内外において更なる臨床的検討が望まれる疾患の一つである。

近年、フレイルの概念が提唱されたが、フレイルと COPD は高齢者に多く、両者の加齢に伴う機能低下の推移が似ていることから、共通のメカニズムが示唆されている。南イタリアでの 12 年間の調査では COPD 患者はフレイル進行に応じた生存率の低下を示し、フレイルが COPD の予後予測因子と報告されている。人参養栄湯は体力低下や疲労倦怠などのフレイル症状に使用される漢方薬で、COPD に対する臨床報告もあがっている。そこで当施設では、外来通院中で既存の確立された治療を受けているにも関わらず、フレイルあるいはプレフレイル状態である COPD 患者を対象に人参養栄湯の効果を検証した。主要評価項目はフレイル状態を反映する基本チェックリスト、副次評価項目には食欲、QOL、心理症状としたランダム化比較試験である。

本研究を基に、フレイル状態である COPD 患者に対する人参養栄湯の多面的な効果について報告する。